定山渓観光魅力アップ構想（案）【概要版】

第１章　構想策定にあたって

策定の背景・目的

○旅行形態の変化・多様化などによる定山渓利用客の低迷
○交通環境の変化（国道230号線の拡幅、LCCや北海道新幹線開業の動き）
○温泉施設の老朽化
○地域における定山渓全体での魅力アップに向けた機運の高まり

「定山渓観光魅力アップ構想」の策定

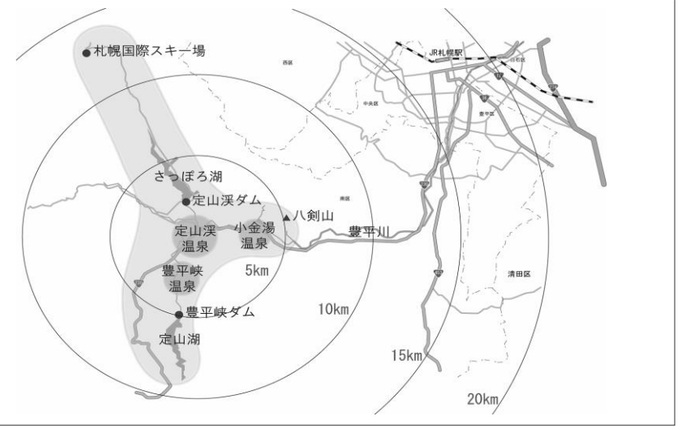
・「札幌市まちづくり戦略ビジョン」で掲げる個別計画「札幌市観光まちづくりプラン」に基づく構想
・取組期間：平成27年度（2015年度）～平成36年度（2024年度）の10年間

札幌の集客交流を担う温泉地として、
札幌市民に愛される札幌の温泉地として、
・温泉観光地としての魅力の底上げ
・新たな価値の創出・発信

さらなる誘客のために、札幌市と地域が共に
魅力的な観光地づくりを進める。

対象エリア

○温泉街を中心とした定山渓温泉の地域にとどまらず、隣接する小金湯温泉や八剣山、豊平峡、札幌国際スキー場までを含んだ広域的な観光エリアを“定山渓”として表現する。



第2章　定山渓観光を取り巻く社会環境　／　第3章　定山渓観光の現状と課題

定山渓の概要

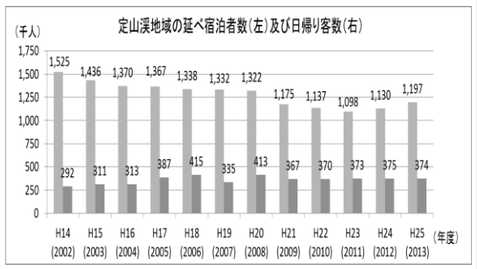
○位置
　札幌中心部から南に約30km、支笏洞爺国立公園の区域内に位置する。
○交通
　大正7年（1918年）から昭和44年（1969年）まで白石～定山渓間を定山渓鉄道が運行。
　現在は、札幌駅前及び真駒内駅から路線バス、市街地からの直行バス「かっぱライナー」が運行。
○歴史
　慶応2年（1866年）に修験僧・美泉定山（みいずみじょうざん）がアイヌの人々の案内で泉源と出会ったのが始まり。
　平成8年（1996年）に「健康保養地宣言」を行い、平成28年に開湯150周年を迎える。
○人口推移
　定山渓出張所管内（定山渓地区及び小金湯地区）の人口は減少傾向にあり、現在は1,924人（平成22年国勢調査）。

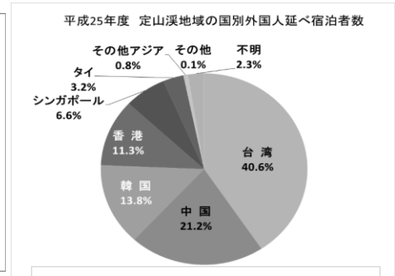
観光に関わる動向

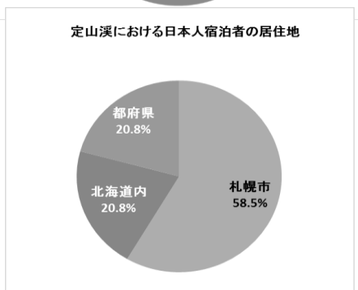
○観光客数・宿泊者数
　札幌市の観光入込客数は、近年やや増加傾向で13,559千人。道内観光客が約7割。
　定山渓の延べ宿泊者数は、年々減少傾向だが、平成23年度を底にほぼ横ばい傾向で、1,197千人。

○外国人宿泊者数
　札幌市全体で1,054千人、定山渓で127千人と、ともに年々増加傾向。
　台湾、中国、韓国、香港が約8～9割、近年東南アジアが増加傾向。

※平成25年度現在。







定山渓の現状と特性

○支笏洞爺国立公園に立地する豊かな自然
○札幌市街地から1時間圏内の都市型温泉観光地
○高温で湯量も豊富な自然湧出源泉
○泉質の異なる3つの温泉地の立地
○2つの大規模なダムやダム湖を有する環境
○老若男女が楽しめるさまざまなアクティビティ
○新規出店による新しい需要の可能性

観光魅力アップに向けた課題

①宿泊者数の減少、客層の変化への対応
②拠点性と周遊性の向上
③温泉施設の老朽化などへの対応や環境整備
④温泉地らしいイメージの創出
⑤空き店舗や空き施設、空き地への対応
⑥国道拡幅に合わせたまちづくり
⑦定山渓ｴﾘｱの魅力や観光ﾒﾆｭ-増大と連携強化
⑧交通アクセスの充実や魅力強化
⑨定山渓の認知度の向上
⑩定山渓の観光魅力アップを担う人材や組織の育成

【温泉地・宿泊地選択の際に重視する点と定山渓の評価】

第4章　定山渓観光魅力アップで目指す姿

目指す将来像

湯めぐり、森めぐり、水めぐり、

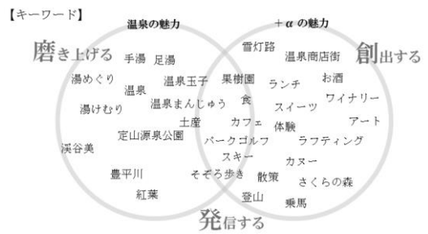
四季あそび－札幌定山渓

市民や観光客が嗜好に合わせてさまざまに楽しめるような、温泉を中心とした新しい価値と魅力をもつ札幌の温泉観光地を目指します。

将来像の実現に向けた基本的な考え方

新・奥座敷へ

心安らぐ**“温泉”** × 心躍る**“＋α”**のリゾート空間

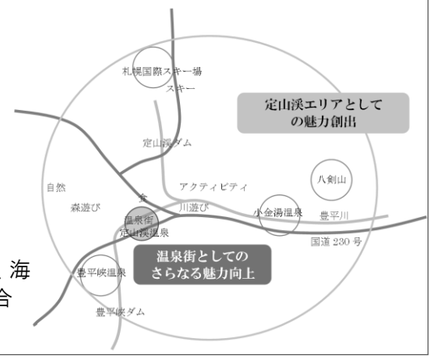


基本的方向性

温泉街としての
さらなる魅力向上

定山渓エリアとしての
魅力創出

上記、2つを主軸に、札幌市民、道内、道外、海外からの観光客それぞれの多様なニーズに合わせて、取組を推進



第５章　基本方針と展開

基本方針１　温泉街らしさやにぎわいづくり

① 温泉施設や観光スポットなどの環境整備

国道230号線及び定山渓中央線を中心とした整備

〇温泉を楽しめる施設などの改修や温泉情緒を感じさせる演出
- ・安全・安心で美しい環境を保つための温泉施設の整備・改修
- ・温泉情緒を感じさせるような湯けむりなどの演出

〇定山渓の顔となる新たな拠点の創出
- ・スポーツ公園にある駐車場を活用した集客交流拠点施設の整備
  （インフォメーション機能、郷土資料展示、トイレ、駐車場などを想定）

〇集客交流拠点施設を核とする各種施設整備に向けた基本計画策定
（二見公園及びトイレの再整備、散策路の環状化などの検討）

② 美しい都市型温泉観光地としての景観形成

〇良好な街並みやにぎわいを感じる活動などにより景観的な魅力を高めるガイドラインの策定

③ 温泉街におけるにぎわいの創出

〇温泉街を歩いてもらうための仕掛け
- ・空き店舗・空き地などの活用や店舗の誘致促進
- ・ライトアップや食の集客などによる夜の魅力向上

基本方針２　広域的なネットワーク化による新たな魅力創出

① 新しい魅力エリアの形成
- ・パン屋やカフェなどの食の魅力スポットの観光資源としての活用
- ・三笠緑地周辺での雪を活用した滞在メニューづくりなどの魅力創出

② 温泉街をハブ（拠点）とした周辺観光資源との回遊性向上
- ・周辺観光資源を巡る周遊バスやレンタサイクルの検討
- ・「札幌シーニックバイウェイ藻岩山麓・定山渓ルート」の取組と連携した南区全体の観光魅力アップ

③ 定山渓エリアまでの交通アクセスの魅力向上
- ・ガイドや歴史・食などの仕掛けによる定山渓までの移動の魅力向上
- ・真駒内駅前地区のまちづくりに合わせた交通アクセスの魅力向上の検討

④ 年間を通した集客イベント事業の推進
- ・既存の春夏秋冬の各イベントの充実
  （春：渓流鯉のぼり、夏：JAZZ TOWN、秋：紅葉かっぱバス、冬：雪灯路）
- ・開湯150周年イベント(H28)やプレイベントの実施及び記念誌制作
- ・市内大型イベントとのコラボレーション

基本方針３　魅力を伝える情報発信・インフォメーションの強化

① 知名度アップ及びイメージ構築
- ・首都圏や関西圏を主なターゲットとした商談会や物産展でのPR
- ・東南アジアなど海外の有望市場への「和」のイメージを使ったプロモーション

② 観光行動を促す動機づけ
- ・世代や目的などのターゲットに応じた媒体などを活用した情報発信

③ 到着後のサポート
- ・ワンストップ窓口としての観光案内所の整備と機能強化
- ・まち歩きや体験活動の発着地としての拠点化

基本方針４　魅力アップの担い手育成とマネジメント

① おもてなしを支える人材育成
- ・地域住民やホテル従業員による観光ボランティアの育成

② 定山渓ファンやサポーターづくり
- ・市内の児童生徒、教員を対象にした体験学習の推進

③ エリアマネジメントの推進
- ・一般社団法人定山渓観光協会の体制及び機能の強化
- ・エリアマネジメント組織の在り方検討

第６章　観光魅力アップの推進に向けて

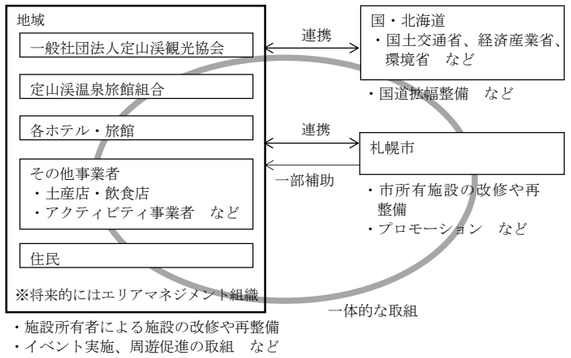
推進体制・進行管理

〇札幌市と地域が役割分担をしながら、連携して進める。地域においては、定山渓観光協会、ホテル・旅館、その他事業者、住民が一体となって取組を推進するとともに、定山渓エリアをマネジメントする体制づくりを行う。

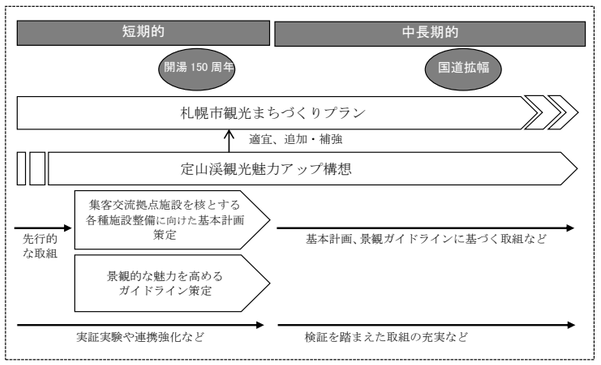
〇新たな取組は実証実験を積極的に行い検証しつつ、本格実施につなげる。基本方針1は先行的取組を行いつつ、集客交流拠点を核とする各種施設整備に向けた基本計画などを策定し、具体的な取組に反映する。

〇「札幌市観光まちづくりプラン」での毎年度の点検・評価に新たな取組などを追加・補強しながら、進行管理を行うとともに、必要に応じて基本方針などの見直しを図る。

【推進体制イメージ】



【進行管理イメージ】



成果指標

〇定山渓地域の延べ宿泊者数
1,197千人(H25)　→　1,450千人(H36)

〇温泉街の街並みに魅力があると感じる人の割合
42.2%(H24)　→　60%(H36)

〇周辺観光スポットが充実していると感じる人の割合
39.3%(H24)　→　60%(H36)

基本方針の展開図（案）

二見吊橋・かっぱ淵

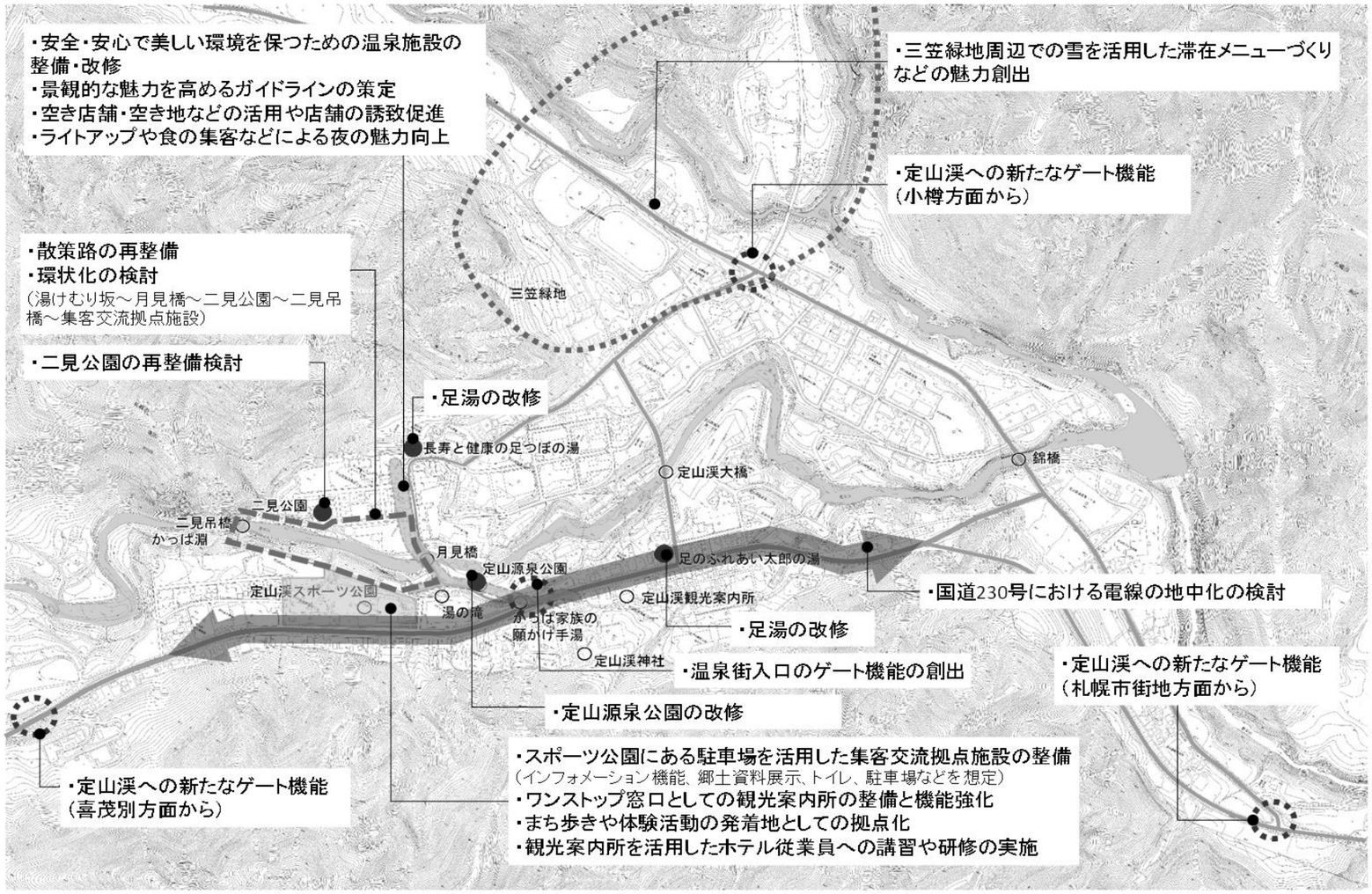
三笠緑地

二見公園

長寿と健康の足つぼの湯

かっぱ家族の願かけ手湯

定山源泉公園



札幌国際スキー場

八剣山ワイナリー

乗馬

アイヌ文化交流センター

カヌー

ラフティング

※　写真は定山渓の観光資源